

芸術工学府デザインストラテジー専攻

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

修士課程

修士課程にあつては、本学府の定める期間在学して研究指導を受け、本専攻の教育理念、目標に沿って設定した授業科目を履修するとともに、基準となる単位数を修得し、修士論文または修士作品の審査および最終試験に合格することが修士（デザインストラテジー）授与の要件です。

修得すべき履修科目には、必修とする専攻内共通科目、選択とする専門科目、自由科目があります。研究の主軸となる分野の専門知識、先端的研究や技能に加え、学際的な研究を行う基礎力を身につけることを目標とします。

また、各領域に共通・横断するデザインに関する専門知識と専門技能の習得に加え、以下の領域ごとの到達目標を達成することを目標とします。

各「領域」ごとの到達目標は以下のとおりです。

デザインビジネス領域

デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識までを学び、さらに社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける方法論を構築できる能力を身につける。

ストラテジックアーキテクト領域

都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどにおいて、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

ストラテジックエクスペリエンス領域

ユーザーエクスペリエンスを形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインなどの情報デザイン分野における、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

評価基準

1. 修士論文

修士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の習得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていないなければならない。

論文審査にあたっては、以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1)研究の課題設定

論文の問題設定が明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

(2)先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して利用した資料や文献が適切に提示され、精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

(3)研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法は適切か。

(4)論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において新規性を持った学術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

(5)論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

2.修士作品

修士作品は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、専門分野における高度な研究手法の修得を示す新規性を有し、かつ研究成果の国際的な発信に向けた対応がなされていなければならない。作品審査にあたっては、作品と作品説明書（作品の意義・背景・方法・成果等を記したもの）を以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1)作品の課題設定

作品説明書において、作品の課題設定が明確に示され、技術的、芸術的、あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

(2)先行作品・先行研究の理解と活用

作品説明書において、作品制作に際して参考となる先行作品・先行研究の調査が的確に行われているか。また、これらから得た知見が作品制作に適切に（批判的かつ効果的に）活用されているか。

(3)作品の制作方法と技術力

課題設定に対し、制作方法は妥当であるか。また、制作において、技術的課題は克服できているか。

(4)作品の表現力と意義

出来上がった作品は、課題設定に応える十分な表現となっているか。また、当該分野において新規性を持った技術的・芸術的貢献や有用性のある社会貢献となっているか。

(5)作品説明書の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。作品説明書としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

審査体制

修士論文又は修士作品の審査は、幹事1名及び委員2名で行う。

博士後期課程

博士後期課程にあつては、本学府の定める期間在学して研究指導を受け、本専攻の教育理念、目標に沿って設定した授業科目を履修するとともに、基準となる単位数を修得し、博士論文の審査及び最終試験に合格して、課程を修了することが博士（芸術工学）または博士（工学）授与の要件です。

デザインストラテジーの専門知識と学際的素養を土台として、芸術工学または工学の専門性をより深化・発展させ、世界水準の研究能力を修得し、独創的な学位論文を完成することを重視します。

さらに研究者として自立できる専門的、先端的な研究能力および知識・思考・分析能力・技能を有し、学際的、総合的視野から社会のさまざまな問題解決に指導的役割を果たす能力を身につけることを目標とします。

博士論文評価基準

博士論文は学位申請者が主体的に取り組んだ研究成果からなり、国際的な学術活動の視点から学術的に新たな知見と高い独創性を有していなければならない。

なお、課程博士の学位を請求する場合は、予備審査の申請要件として参考論文に査読付き論文を1編以上含まなくてはならない。

また、芸術表現、デザイン実践及びデザイン計画等を主とする研究分野の博士論文を提出する場合は、参考論文を参考作品に代えることができる。

論文審査にあたっては、以下の評価項目を考慮しながら検討し、総合的に評価を行う。

(1)研究主題(テーマ)の意義

論文の問題設定が、当該分野の学問的蓄積を踏まえて明確に示され、学術的あるいは社会的な意義を有すると認められるか。

(2)先行研究の理解と提示

研究主題の探求に際して、利用した資料や文献が網羅され、それらの精確な読解や的確な評価が行われているか。また、論旨を展開するうえで適切に言及されているか。

(3)研究方法の妥当性

研究主題探求のために採用された、理論、実験、シミュレーション、試作・試行、調査あるいは資料収集などの研究方法が適切かつ効果的に用いられているか。

(4)論証方法や結論の妥当性と意義

問題設定から結論にいたる論旨が、明確で実証的かつ論理的に展開されているか。また、導き出された論旨・結論が、当該分野において、新規性、独創性を持った学術的貢献や高い有用性のある社会貢献となっているか。

(5)論文の形式・体裁

語句の使い方や文章表現は的確か。学位論文としての体裁は整っているか。文献等は正しく引用され、図表等の引用元は明らかにされているか。

審査体制

博士論文の審査は、主査1名及び副査2名以上で行う。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

本専攻は、デザインストラテジーの実践能力を、相互に関連するデザインエレメントとして捉え直し、それを3つの対象にまとめ、教育の基礎的な単位となる「領域」を編成しています。これにより、本専攻が目標として掲げるデザインストラテジーの実践能力の涵養を目指します。

デザインビジネス領域

デザインビジネスの基礎から知的財産として活用する専門知識までを学び、さらに社会、経済、産業との関わりから新しいデザインニーズを開拓し、解法に結びつける方法論を構築できる能力を身につける。

ストラテジックアーキテクト領域

都市・建築デザイン、空間デザイン、インダストリアルデザイン、生活文化デザインなどにおいて、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

ストラテジックエクスペリエンス領域

ユーザーエクスペリエンスを形成する映像デザイン、インタラクティブデザイン、リスニングデザインなどの情報デザイン分野における、デザインビジネスとの統合をふまえたデザインストラテジーを構築できる能力を身につける。

科目編成（修士課程）

・「専攻内共通科目」12単位

各領域、または複数領域で共同して実施する科目。デザインストラテジープロジェクトAおよびBの8単位は必修。

・「専門科目」16単位

各領域内で実施する科目。各8単位以上を選択。

・「自由科目」12単位

専攻内科目から選択。

合計40単位以上を取得し、かつ必要な研究指導を受けた上で修士論文または修士作品を提出し、その審査および最終試験に合格することが必要です。

博士後期課程では、学際的な素養を前提に、専門性をより深化させることを重視し、学生は各自の専門分野の研究プロジェクトを推進します。

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本専攻では「高次のデザイン教育」という理念・目標に基づき、デザインストラテジーに関わる多様な関係性と方向性を的確に分析・構想・実践・評価できるデザインストラテジストを養成することを目標としています。そのために、デザインストラテジーを積極的に構築していこうとする態度と資質を有する学生を求めています。

具体的には以下です。

- (1) 専門知識と柔軟な発想力、豊かな創造力
- (2) グローバルに活躍できるコミュニケーション能力
- (3) 社会形成に対する関心と洞察力、現状に対する分析力

これらをふまえ、未来社会のデザインに積極的に関与していこうとする学生を評価し受け入れます。

以上のような学生を受け入れるために、入学者の選抜においては、①専門分野の基礎的学力、②自己の問題関心や思考を他者に伝達できる的確な日本語(英語)の能力、③積極的に新しい課題に取り組もうとする態度や意欲を重視します。また、社会人と留学生を積極的に受け入れます。